

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立林田小学校

<p style="text-align: center;">教育目標（めざす児童生徒像）</p> <p>豊かな心を持ち、主体的に生きる子どもを育てる やさしく かしく たくましく</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <p>自己肯定感と人権尊重の精神の育成 基本的な生活習慣の定着と健康安全教育の推進 基礎基本の充実と問題解決能力の育成 創造的建設的な自治活動能力の育成</p>
<p>調査結果について（調査結果において明らかになったこと）</p>	
<p>【学力状況調査の結果】 国語A、算数Aとも、県平均と比べると正答率は低いが、前年と比べるとその差は縮まっている。 国語B、算数Bとも県平均と比べると正答率は低い。 短答式、記述式の問題の正答率が低い。 国語は書くこと、算数は図形、数量関係の領域の正答率が低い。</p> <p>故事成語「五十歩百歩」本校62%（県48%）新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える、本校76%（県70%） 割合が1より小さい場合でも（基準量）×（割合）になることの意味理解、本校60%（県51%）加法・減法・乗法の計算、 本校平均値93%（県平均91.5%） 複数の事柄を並列の関係で書く「～たり、～たり」、本校62%（県75%）、国語辞典を使って言葉の意味と使い方を 理解する（同音異義語）、本校60%（県75%） 100 - 20 × 4の四則混合式の理解、本校66%（県88%）、図形の約束や性質を使った作図、本校36%（県54%）</p>	<p>【学習状況調査の結果】 地域行事への参加の割合は高い。 地域や社会の出来事や問題、ニュースなどへの関心は、県平均より高い。 算数に関する問いには肯定的な意見が多く見られ、算数に関する興味関心は高い。 平日1日あたりのテレビ等の視聴時間、テレビゲーム等の時間が県平均よりも長い。 家庭学習の習慣は定着しつつあるが、家庭等での学習時間は県平均より短い。 読書の時間や図書館の使用頻度の高い児童の割合が県平均より高い。しかし、読書をしない子の割合も高い。 あいさつは、できていると感じている子の割合が高い。 自己肯定感や、物事の達成感に対する肯定的な意見の割合が県平均より低い。 文章で説明したり、うまく伝えるように工夫して発表したり書いたりするなど、言語活動に関する項目について 課題が見られる。</p>
<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>A問題については、国語・算数とも前年度より平均正答率が3ポイント程度上昇し、全国平均との差も縮まってきた。 前年度以前より、国語の漢字や、算数の四則計算等の基礎的な内容の定着に取り組んできており、少しずつ効果が見られている。 国語の「言語に関する知識・理解」領域は、本年度67%（昨年度53%）、算数の「数と計算」領域は本年度79%（昨年度73%） となっている。</p> <p>国語、算数ともに、活用型の問題を苦手としており、記述式の問題に対して無解答率が高い。 国語の活用問題については、下位層から中位層への底上げが図られている。基礎的な内容の定着に努めてきた成果が見られる。 今後については、中位層から上位層への底上げが課題である。 算数の活用問題については、前年度から比較して最下位層が減少した。しかし、最上位層も減少しており、全体的な底上げが課題である。</p> <p>国語では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の定着に課題がある。長文の感想文や説明文を書くことや、自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることを難しいと感じている児童が県平均を上回っている。 算数では、「授業の内容はわかる」、「新しい問題を解いてみたい」など意欲は高い。「図形」、「数量関係」の領域の定着を図っていくことが課題である。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <p>当該学年までに配当されている漢字を、ドリルや小テスト等を行い正しく習得する。 書く指導では、構成や表現の効果などについて工夫しながら文章を書くことや、読み手の立場から客観的に確かめるように指導する。また、文字数や言葉などの条件設定をすること、考えをまとめたり、文章の記述と関連づけたり、根拠となる事柄を意識させたりしながらまとめをする活動を意図的に設ける。 話す・聞くの指導では、司会の役割を理解し、立場や意図を捉えながら話し合いの観点を整理する等の指導を行い、話し合い活動が充実するようにする。 国語辞典は、必要に応じて各教科の学習や日常生活の中でも利用できるよう働きかけ、国語辞典を手元に置くような環境づくりにも努める。 基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図るため、繰り返し練習の機会を計画的に設ける。 図形の指導では、具体物を使った操作活動を取り入れ、視覚的にも感覚的にも実感できる活動を更に取り入れる。 数量関係の指導では、小数倍の意味を図と関連づけることや、目的に応じて図やグラフを選択し活用することの指導を丁寧に行う。 魅力ある授業づくり徹底事業を活用した授業改善、岡山型学習指導スタンダードを取り入れ、特別支援教育の観点に立った指導についての校内研究の充実を図る。 家庭との連携を図りながら、チャレンジ週間等を設けるなどして、家庭での学習時間が増えるよう働きかける。 朝学習、放課後補充学習等により、基礎的な内容が定着するよう継続的に進めていく。</p>
<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期</p> <p>4年、5年 学力定着状況たしかめテスト(11月) A問題に類似した小テスト等を行い、定着率を検証する。(随時) 家庭学習の時間についてのPTAアンケートを行う。(学期ごと) 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。</p>	<p style="text-align: center;">達成目標（数値目標）</p> <p>学力定着状況たしかめテストの平均正答率で、県平均に並ぶ。 A問題に類似した小テストの正答率80%以上。 家庭学習の時間が目標値を上回る児童の割合が増加する。</p>